



チーム医療の人材育成に取り組んでいる群馬大は昨年7月、世界保健機関(WHO)から保健人材の育成を目指す「WHO協力センター」の指定を受けた。WHOと連携して研究、研修を推進。先駆的なチーム医療教育を世界に発信していく。同大は指定と同時に実務機関として「多職種連携教育研究研修センター」を開設。センター長で同大大学院保健学研究科長の渡邊秀臣さんと、同センター担当で同科准教授の安部由美子さんに活動内容を聞いた。

保健分野は国内初めて

— 高度・専門化が進む医療現場では、多職種が連携して患者に向き合うチーム医療の人材育成が求められている。協力センターとしての活動内容は、
渡邊 国際的なチーム医療の普及と研究拠点として群馬大が指定されました。保健人材の育成分野では国内唯一で、期間は2017年7月までの4年間で、学内に立ち上げた「多職種連携教育研究研修センター」を拠点に15~20人体制で取り組みます。活動の骨格は①国際学会への参加や発表、国際シンポジウム開催などの啓発事業②チーム医療教育の効果に対する科学的研究③研究論文の把握と報告④WHO西太平洋事務局が進める教育開発センターへの教育的

群馬大 多職種連携教育研究研修センター

センター長 **渡邊 秀臣さん**
担当 **安部由美子さん**

支援⑤アジア地域の教育者、実践者へのトレーニングコースの開設です。昨年8月に群馬大で1週間のトレーニングコースを開き、フィリピンとインドネシアの医療関係者やWHO関係者など4人が参加しました。7月には国際シンポジウムも予定

— 群馬大はほかの大学に先駆けてチーム医療教育を実践してきた。
渡邊 1998年の保健学科開設時からチーム医療教育を導入し、現在は医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士の「卵」が学んでいます。よりよいチーム医療を進めるためにそれぞれの専門職が連携して患者さんと接することが必要です。例えば病院で高度な治療を受けても、退院すれば自宅で療養しなければなりません。患者さんがお年寄りなら介護など福祉の資格を持った人たちが活躍してくれます。より広い分野の職種が連携して対応すること

教育システム 研究成果発信

— 群馬大はほかの大学に先駆けてチーム医療教育を実践してきた。
渡邊 1998年の保健学科開設時からチーム医療教育を導入し、現在は医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士の「卵」が学んでいます。よりよいチーム医療を進めるためにそれぞれの専門職が連携して患者さんと接することが必要です。例えば病院で高度な治療を受けても、退院すれば自宅で療養しなければなりません。患者さんがお年寄りなら介護など福祉の資格を持った人たちが活躍してくれます。より広い分野の職種が連携して対応すること

WHO協力センターに

チーム医療で人材育成

が総合医療として求められています。そのための教育システムや研究成果を発信することを心掛けてきました。
安部 学生は県内20カ所の医療、福祉施設で実習し、さまざまな職場や医療現場で指導を受けてきました。医療従事者なら、お互いの専門性を理解してコミュニケーションを図り、何が必要なのかを考えなければなりません。たとえば病状が急性期か慢性期か。入院か在宅療養かで求められる知識や技術が違ってきます。その時にどの職種がリーダーシップを發揮するべきかも違います。そして巣立った学生が職場で活躍してくれることがチーム医療の進展につ

— 協力センターの活躍を通して今後の可能性や理想の形は、
安部 医療に携わる、いろいろな職種の人たちが群馬大に行けば多職種の連携について学ぶことができる。つまりチーム医療の実践や研究ができると思うようになればいい。全国各地から、さまざまな人材が集まるようにしていきたいと思えます。
渡邊 地域に密着したチーム医療教育を推進したいと思えます。どんな時にどんな場面でチーム医療が必要になるのか。必要でないこともあるかもしれません。そうしたことを調べることも必要です。学生が職業として現場に入った後も、専門分野に誇りと自信を持ち、異なる職種同士が認め合い、一緒に患者さんのことを考える。そんな人が育てばいいと思っています。この分野で日本が世界に貢献できることは多いはず。



わたなべ・ひでおみ 埼玉県出身。1979年群馬大卒業。同大大学院保健学研究科が発足した2011年から同研究科長。趣味は読書(歴史もの)
あべ・ゆみこ 神奈川県出身。1990年群馬大大学院修了。同大助教授を経て2011年から同大大学院保健学研究科准教授。趣味は仕事

ながることを目指してきました。こうした実績から2007年には文部科学省の教育支援プログラムに採択されました。協力センターの指定はこうした取り組みが評価された結果だと思えます。
— 途上国などでは保健人材の確保が急務になっている。
渡邊 途上国の中には、医師や看護師がいない地域がたくさんあります。エイズなどの感染症に対応できなかったり、子どもたちの死亡率も高い。医療従事者で、そうした状況にあったら自分の専門以外の場合でも対

群馬大学医学部附属病院

認知症疾患医療センター (もの忘れ相談)のご案内

こんな症状はありませんか?

- 同じことを何度も聞いてくる。
- 物の名前が出てこない。
- 夜中に起きていることが多い。
- だらしなくなってきた。
- 怒りっぽくなってきた。
- 見えるはずのない物が見えているという。
- 道順がわからなくなり、迷子になった。

これらの症状は、認知症のはじまりかもしれません。

- 認知症も他の病気と同様、早期発見・早期診断・早期治療が大切です。
- 認知症に効果のある新しい薬も使えるようになりました。
- 認知症の症状や病状の悪化がみられる場合は、お早めにご相談ください。
- 介護ケアを受けていて悩んでいる方もご相談ください。

お問い合わせ先
群馬大学医学部附属病院
認知症疾患医療センター専用窓口
☎027-220-8047(直通)
受付時間 9:00~15:00 (土日、祝日、年末年始を除く)

〒371-8511 前橋市昭和町3-39-15
☎027-220-7111 (群大病院 代表)

ご相談の費用は無料です。